



11月1日(月)より、明野歴史民俗資料館第15回企画展「装いの民俗」が始まりました。既に市から広報されていますが、北杜市郷土資料館再編のため、明野歴史民俗資料館は平成22年度をもって閉館となります。本企画展が資料館の最後の企画展となりますので、足をお運びいただくと幸いです。

(内海)

前回の企画展「食の歳時記」では、北杜市における、高度経済成長期前の「ケの日」、つまり日常の食の風景について取り上げました。北杜市のような農村地帯では、一年を農の暦に沿って送り、一日もまた、農作業を中心に送りました。食だけでなく、装いも農作業に適するよう作られ、発展していきました。

人々の装いは、第二次世界大戦中に合理的な衣服として示された標準服などを契機に、戦後、洋装化していきます。洋服や靴が普及していき、仕事着(野良着)も市販のものを購入するようになりました。本企画展では、そのように変化していく前、昭和初期頃までの、仕事着を中心とした、人々の日常の装いについて紹介しています。

展示室で、来館者を迎えるのは2体のマネキンです。

左のマネキンは、昭和初期頃までの男性の仕事着を再現しています。上体にはキモノ、下体にはモモヒキ(この辺りでは「フンゴミ」と呼ぶ場合もある)を身に付けています。カルサンが登場してからは、女性と同様、下体にカルサンをはく男性もいました。昭和10年代以降、ズボンが登場し、上体も昭和初期頃からシャツを着るようになっていたため、男性の仕事着は洋式化していきました。

右のマネキンは、昭和10年代頃までの女性の仕事着を再現しています。上体にはキモノ、下体にはカルサンを身に付けています。カルサンは、明治時代末期から大正時代末期にかけて信州方面より伝わり、峡北地方に広く普及しました(それ以前は、キモノの下にコシマキをつけ、前がはだけないようマエダレ(前掛け)をかけていた)。戦時中に活動的な標準服が紹介されたことにより、昭和20年代以降はモンペが流行しました。カルサンとモンペの違いは、ただ呼称の違いや、マチの形状の違い、全体の形状の違い(カルサンは中に長着の裾を入れられるよう脇の開きが大きいのが、モンペは短着に対応しているので脇の開きが小さい)など、様々な説があります。野良仕事や家事をする時は、上にエプロン(割烹着)を着けました。

仕事着・普段着・余所行きは、今ほど明確に分かれていなく、着古した余所行きを普段着、そして仕事着に使用していました。



カルサンをはいた女性
(内田宏撮影 昭和31年)



モンペをはいた女性
(内田宏撮影 昭和30年)

「衣食住」というように、「衣生活」は暮らしの基礎を成すものです。暮らしをより快適に、便利にするために、人々は様々な工夫や改良をし、衣生活周辺のモノを発展させていきました。その変遷については、次回のかわら版にてお伝えします。

かやぶんミニ★ニュース

陸稲おむすび&けんちん汁を作ったよ!

20日(土)に、ドキドキ!!まいぶんシリーズのスペシャルイベント「^{おかぼ}陸稲おむすび&けんちん汁を作って食べよう」を開催しました!



「みんなの畑」で育てた陸稲(畑で育つ米)。大切に大切に育てましたが、収穫できたのは小さな2束だけ。それでは、おむすびを作るのに足りないの、畑作り協力隊の方が少し(たくさん?)分けてくださいました。「みんなの畑」で獲れた2束は、^{せんぼこ}千歯扱きを使って^{だっごく}脱穀するところから始めました(写真右上)。脱穀した陸稲を急いで^{はがま}精米し、いただいた陸稲と合せて、羽釜で炊きました。けんちん汁は、季節の野菜をたっぷり入れて作りしました。



移動式のカマドを2つ使って、それぞれ、炊飯とけんちん汁作りをしました。家の調理器具も、ガスコンロからIHクッキングヒーターに変化している現代。子ども達にとって、実際に「火」を見る機会はあまりないようです。カマドの中をじっくり見つめたり、^{ひばき}火鉢で薪をいじろうとしたり、やはり炎が気になるようでした。炊き上がったご飯はツヤツヤで、ふっくらモチモチ。熱いけれど頑張って、塩むすびを握りました。陸稲おむすびとけんちん汁、そして先生が作ってくださった煮物で、青空の下、みんなでいただきます!



=ドキドキ! まいぶんシリーズ=

2010年 12月の予定～



★囲碁に挑戦!

楽しみながら囲碁のルールを覚えよう☆
はじめてのお友達でもだいじょうぶ!

日にち: 12月2日(木) 午後5時～7時

★おぼあちゃんの知恵袋

林でみつかると自然の材料を使って、リースを作ってみよう!

日にち: 12月7日(火) 午後5時～7時

★おたのしみ会!!

おかし作りやビンゴゲームをするよ☆
今年最後のイベントを楽しもう!



日にち: 12月17日(金) 午後5時～7時

ドキドキ! 埋文シリーズで、いろんな体験を楽しもう♪ 参加者申し込み受付中です!
お問い合わせは茅ヶ岳歴史文化研究所まで。

=ご寄付=

篠原 幸子様 誠にありがとうございました。

=会員募集=

茅ヶ岳歴史文化研究所では、私たちと一緒に活動して下さる方、ご賛同いただける方を募集しています。

こんなことをやってみたい人は、ぜひ!

- 歴史や文化財の研究を通じて知識を深めたい
- 活動を通じて文化財保護や活用に役立ちたい
- イベントを通じてさまざまな人と交流したい

入会金: 1000円 年会費: 1000円

=編集後記=

先月は神楽で「芸能の秋」を楽しみましたが、今月は子ども達が「食欲の秋」を堪能したようです。「みんなの畑」の収穫はささやかなものでしたが、食べ物を育てる大変さとその大切さを、そして自分たちで作ったものを食べる喜びを、子ども達は感じてくれたでしょうか。

今年もあっという間にあと1ヵ月を残すのみとなりました。日々厳しくなる朝の冷え込みに、冬の訪れを感じます。皆様もどうぞお体に気をつけてお過ごし下さい。

かやぶんかわら版 第66号

平成22年11月30日発行

特定非営利活動法人 茅ヶ岳歴史文化研究所(かやぶん)

〒408-0204 北杜市明野町上手8310
明野歴史民俗資料館内

TEL/FAX 0551-25-2019
ウェブサイト <http://www.kaya-net.jp>
E-mailアドレス info@kaya-net.jp